

清里 まちづくり

No.22

企画・編集・発行 清里まちづくり協議会 事務広報部会

清里まちづくり協議会事務局

〒370-3573 前橋市青梨子町 339 清里公民館内

TEL251-9005 FAX255-0341

<http://www.city.maebashi.gunma.jp/>

まえりあ清里

で検索



清里地区の文化祭などでは毎回好評な「きよさと焼き」ですが、まったく

プのおかげで、六十人以上の人たちにお手伝いをしていただき、五〇〇枚以上を販売することが出来ました。



きよさと焼きのテント

食育部会では、八月十三日(土)に初めて野外イベントへの参加をしました。普段の「きよさと焼き」は、六人から十人ほどで焼いているのですが、今回は自治会の全面的なバックアップのおかげで、六十人以上の人たちにお手伝いをしていただき、五〇〇枚以上を販売することが出来ました。

【食育部会長 新井博孝】

“こころひとつ。響け！日本”
前橋の絆へ参加！

大震災からの復興を支援するチャリティイベント“こころひとつ。響け！日本”前橋の絆が八月十三日(土)に前橋公園で行われ、この催しに、「そば打ち部会」が参加しました。
朝九時に受付して、二台の車で道具を搬入し、森村、小林、松岡の三名で開店準備をしました。真夏の太陽がキラキラと照りつけ、会場の気温は四十七度にもなるうと思われるテントの中でそばを打ち始めました。暑いので麺が打つそばからどんどん乾きます。それ

【そば打ち部会長 松岡好一】

助けてもらいながら、大成功を収めることが出来ました。本当にありがとうございました。



きよさと焼きを求める長い列

「きよさと焼き」を知らないお客様に、一枚二〇〇円で販売し、終了が近づくとつれ購入待ちの列が長くなり、用意していた材料が終わった時には感動してしまいました。

でも打ち上げたそばをパックに詰めて冷蔵庫へ。そんなことをしているうちにお手伝いのご婦人方が来てテントの中はぎやかになりました。午前中に少し売れました。きよさと焼きは売れているようです。暑さのため、「そばパック」は店頭に出しておけないので、もっぱら声を出して売り込みに皆な真剣でした。



そば打ちの準備完了

やがて交代の人たちが来て、テントの中は暑い盛りでしたが、五時過ぎた頃より空に雲が出て、日差しが少なくなつたので、「そばパック」を店頭と並べたところ売れ出しました。売り手のご婦人方も声を大きくして売り込みます。打ち手の三人も大忙しでそば打ちを開始。夕方一時間位が勝負となりました。

午後八時、販売終了のアナウンス。後かたづけをしながら花火を見物。会

場でどつと歓声が上がりました。身近の花火見物は素敵でした。そして帰途へ。そば打ち部会の人たちが力を合わせて無事終了できました。

これでまたひとつ、そば打ち部会の「絆」が太くなったようです。お手伝いの人たちのご苦労とお力に感謝の気持ちいっぱいです。本当にありがとうございます。また、これからもよろしく願います。



そば打ちテント前で

築地トップセールスへの参加

【食育部会長 新井博孝】

食育部会では、前橋の野菜を築地で販売促進するため、枝豆(湯あがり娘)の試食とともに枝豆を使用した料理として『きよさと焼き』の試食配布を行

ってきました。

七月八日(金)の早朝四時から仕込みを始め、六時三〇分に配布開始という強行スケジュールでしたが、予定の二〇〇食

(一口サイズ)を完成させることが出来ました。前橋市長を始め、市農林課やJ Aの職員などと一緒

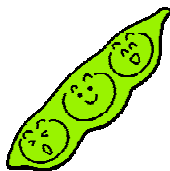


きよさと焼きで枝豆をPR(築地市場)

二つ目を取りに来てくれた方もいて大成功に終わりました。

多くの方のバックアップのおかげで、『清里』を知らない方にも『きよさと焼き』を喜んでもらえるようになってきたことは、これからの自信になると思います。

最後に、七月二十三日(土)の枝豆冷凍加工をお手伝いいただいた方々にお礼を申し上げます。これで文化祭ではおいしい『きよさと焼き』を販売することができ



地域づくり交流フェスタが

開催されました

【事務局次長 松下 均】

六月二十六日(日)に、前橋市総合福祉会館において、地域づくり交流フェスタ2011」が盛大に開催されました。

このイベントは、前橋市内各地区の地域づくり団体の活動発表や情報交換の場として、平成十九年より開催されています。五回目を迎えた今年は、内容を活動報告中心から、市民参加や情報交換中心に変更し、内容を充実させました。また、参加地区も二つ増加、二〇地区となり、今までで最も盛大なイベントとなりました。



地域づくり交流フェスタ「わくわく広場」の様子

イベントの内容は大別すると、スティージ発表、わくわく広場、地域づくり情報交換会、の三つで構成され

ました。

スティージ発表では、バンドやハンドベル演奏、スポーツ吹き矢実演などが行われました。わくわく広場では、エコバックや万華鏡づくり、丸折り紙遊びなどが体験できました。地域づくり情報交換会では、普段の活動に関する情報交換の他、パネル展示、地域自慢の食品の実演・配布などが行われました。

このイベントの様子は、群馬テレビのニュースや上毛新聞でも取り上げられました。

当協議会は情報交換会で存在感を発揮！

清里まちづくり協議会としては、地域づくり情報交換会の六部門のうち、「自然・環境」、「食」、「福祉」、「組織・運営」の四部門に参加しました。

「自然・環境」部門では、花いっぱい運動部会が参加し、パネル展示と情報交換会で中心となつて活躍しました。また、

「食」部門では、食育部会



「自然・環境」情報交換会の様子

が、きよさと焼き」を会場内で実演し、配布しました。地元特産品（枝豆と玉ねぎ）を使用したオリジナルの加工食品として大変好評を博し、群馬テレビのニュースの中でも取り上げられました。



大好評だった「きよさと焼き」の実演

「福祉」部門では、社会福祉部会が市内の「いきいきサロン」先進地域として、これまでの経緯や活動状況を報告しました。



福祉部会の展示パネル

「組織・運営」部門では、清里地区

の自治会長さん方に参加していただき、地域づくり活動について見識を深めていただきました。

花いっぱい運動部会

【花いっぱい運動部会長
桜井恭子】

花いっぱい運動部会では、七月二十二日（金）、長野県蓼科方面へ視察研修を行いました。今回は、恵泉女学園の「蓼科ガーデン」をメインに、バラクライングリッシュガーデンやおぎはら植物園を訪問しました。

蓼科ガーデンは、八ヶ岳山麓の広大な唐松自然林の中にあり、自然と人間



すてきな庭園を満喫

との共存」をポリシーに作られたイングリッシュガーデンです。

当日は、ガーディナーの方に丁寧な説明をしていただきながら、清々しい自然感あふれる庭を堪能して来ました。

社会福祉部会

【民生児童委員 松島 裕】

前原地区のふれあい・いきいきサロンは、高齢者が、井戸端会議のように誰もが気軽に立ち寄り、隣近所とのコミュニケーションを図ることを目的として設立したものです。

平成十四年七月に開催されて以来、今年九月で一〇九回を数え、会員（二十六名）の皆さんから大変期待されるような存在になっています。

毎月第一月曜日に会員の要望等により地域の指導者を招き、いろいろな行事を用意し、楽しいひと時を過ごしています。



西高生ボランティアとの共同作品

これからも、地域の皆様の協力を得て、創意工夫しながら運営にあたり、サロンの更なる充実を図ってまいります。

各自治会からの報告

【上青梨子町自治会長
馬場隆雄】

六月に植えたサルビアの花が最盛期を迎えた今日この頃です。

上青梨子町では、サルビア苗植えとアジサイロー



ドの除草、剪定作業、そして関越自動車道の東に六中の生徒が通学に利用したり、地元の人が散歩する東西川遊歩道の除草作業を行っています。

また、九月に行う予定でいる秋祭り（樽みこし、百万遍）の準備会議を進めているところです。

【清野町自治会長

遠又 薫】

秋の祭礼に向けて子供たちは今、獅子舞保存会の皆様のご指導をいただき、

男の子は舞方、女の子は笛を週二回、木曜日、集会所において大粒の汗を流しながら獅子舞の練習に励んでいます。最初はぎこちない動きでしたが、回を重ねるたびに向上して、ひと回りもふた回りも舞が大きく見えるようになりました。笛も同様に、音色もテンポも上達しており、今から秋の祭礼を楽しみにしているところです。



一生懸命に獅子舞を練習

また、秋葉様は、土地所有者の強い要望により八幡様敷地内の向かって左側石宮の並びに移設しました。古くから火防（ひぶせ）の神様としてあがめられてきました。これからも末長く清野町をお守りいただけますようにと、総代及び関係者を交えて、七月四日に移設のお祓いをし、七月一八日に完了の鎮座祭を取り行いました。

【青梨子町前原自治会長

松島 登】

七月三十日（土）に予定した前原地

区納涼祭は、当日前橋市全域に大雨警報が発令され、準備予定時間も降雨中であり、天候の回復が見込まれず、翌日に延期し場所、時間も変更されました。地域住民の皆様や関係者への延期の連絡等で、自治会の役員の皆様には大変お世話になりました。

前原集落センター駐車場に場所を変えての納涼祭実施となりましたが、模擬店準備や子供神輿の最終確認等に、多くの皆様のご協力をいただき、午後一時からの本番に備えていただきました。



みんなでワッショイ！ワッショイ！

納涼祭の最初は、中嶋宮司さんのお祓いを受けて、曇り空の中、子供神輿の町内巡行で始まりました。子供たちの元気がが地区内の住民の皆様にも伝わったことと思います。今回は天候に

恵まれませんでしたが、子供たちにとって思い出の納涼祭になりました。子供たちは十分に満足できたのでは、と主催者側では感じています。多くの関係者の皆様には、ご支援・ご協力をいただきましたことに重ねて厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

連載

清里の歴史

江戸時代の池端村(1)

【事務広報部会長

松下熙雄】



池端村の地名の起こりについては、資料的には明らかでない。推測されることは、榛名山の伏流水の湧出地でもあるので、古代には池(溜池)があり、その周辺に村落が形成されたことによると思われる。

元和五年(一六一九)安藤対馬守殿御領分高覚帳(東大史料編纂所)によれば村高350石2斗余、その内訳は田方14町7反余・畑方13町1反余とあり、この時には高崎藩に属していた。元禄十一年(一七五八)の「村差出し帳」(現在の村政要覧)には田方14町7反8畝5歩・畑方23町3反6歩とあり、内藤金左衛門様御内小沢源五兵衛様・山田、山本喜左衛門様の二

給地であった。明和元年(一七六四)の「村明細帳」(小曾根家文書)によれば、村高350石2斗6升とあり、幕府領と旗本の七給で、それぞれ名主・組頭・百姓代も七人ずついた。この時の田方は前とかわらなかつたが、畑方は48町3反余とかなりの増加が見られる。家数は82、人数は男197、女150、馬9とある。冬や耕作の間(農間渡世)として「かいこ仕、きぬ少々仕申候」とある。明和元年の「村明細帳」には「耕作之間百姓男女仕業之事二附作穀物之外絹・綿少々ツツ致申候。是八耕作之間、男者冬者薪苧取其外祢こ筵仕業二仕、女八冬八絹・木綿・はた仕、男女共二渡世之足合二少々仕候」とあり、農間渡世として機織り・綿細などの仕事が行われていた。ということとは、この池端村では江戸時代の初期の頃から養蚕・機織りがなされていたと言えよう。市としては高崎市の市(五・十・十五・廿・廿五・晦日)の六斎市、惣社市日(三・八・一三・一八・廿三・廿八日)の六斎市が利用された。

又、寺は真言宗天明寺、高札場は七給共に名主の家の前にあった。池・沼等は「無御座候」とあり、その存在は認められず、用水は天水・山川・用水堀として神戸川・蟹沢川が利用された。当時の秣場として上平・二ツ獄・湯平・野田原・相満獄・中子原の十三ヶ村の入会地が薪取場・落ち葉かき・草刈り場などとして利用されていた。